

高等部 ～後期産業現場等における実習報告～

高等部2・3年生では、夏休み明けすぐの9月5日（月）から16日（金）の10日間、事業所・施設にご協力いただき、産業現場等における実習を行いました。今回は、卒業後の生活を見据えて、グループホームを利用しながら実習を行った生徒もいます。前期の反省点や課題点を後期の実習に生かし、全員が目標達成に向けて意欲的に取り組んでいました。

3年生にとっては、進路を決めるための大切な機会ということもあり、尚一層の気合の入った実習となりました。保護者の皆様におかれましては、実習期間中の弁当準備を始め、ご理解とご協力、本当にありがとうございました。

実習先			
黒石市	黒石苑（生活介護）	板柳町	あいゆう工房（就労継続支援B型）
	ワークスくろいし（就労継続支援A型）	青森市	みらいの里（生活介護）
	オリンパスサポートメイト 青森事業グループ（特例子会社）	弘前市	N E X T（生活介護）
平川市	カリフラワー（就労継続支援B型）		櫻舞う郷弘前城東口（グループホーム）
備考	今回は高3の生徒1名が、グループホームを2週間利用しながら実習を行いました。		

<実習の様子>



カリフラワー



ワークスくろいし



あいゆう工房



みらいの里



黒石苑



NEXT



オリンパスサポートメイト
青森事業グループ（特例子会社）

**後期産業現場等における実習を充実した
ものにするためには、保護者の方の協力が
不可欠です。**

産業現場等における実習では、働く体験を積むだけでなく、それを支える力（生活リズム、身だしなみ、体力、コミュニケーションなど）がどれくらいあるのか、10日間がなることができるのか問われる機会です。また、卒業後の生活を想定し、放課後等デイサービスを利用せずに帰宅し一人で過ごすなど、将来の生活を考える機会にもなります。

産業現場等における実習の10日間を充実したものにするには、本人の努力みならず、ご家族の皆様の方の支えが欠かせないものになります。

校内実習・黒養ワークトレーニング社(模擬会社)について

1年生の後期現場実習は、校内と黒石市産業会館に分かれての実施となり、それぞれの会場で自分たちの仕事に集中して取り組みました。作業内容は、前期に引き続き藤崎町にある東和電機工業株式会社から部品を提供していただいたボルトナットの仮組と備品の袋詰めです。今回は10日間で33500本の仮組と2800袋の袋詰め作業を行いました。

校内実習は送迎サービスを利用する生徒1名が参加しました。黒石市産業会館での実習には生徒4名が参加し、自力通勤を含めて模擬会社形式での実習を経験しました。

黒石市産業会館での実習は、黒石市、黒石商工会議所、黒石市教育委員会、社会福祉協議会と一緒に実行委員会を立ち上げて「黒養ワークトレーニング社」という模擬会社形式で3年ぶり実施しました。学校を離れ黒石市産業会館で実施することにより、地域のみなさんに生徒たちの活動を身近に感じてもらう機会ともなります。また、「黒養ワークトレーニング社」には、希望する近隣の中学校から多数の生徒が参加し（今回は、黒石中学校、平賀東中学校、藤崎中学校、大鰐中学校の生徒）、高等部の生徒と一緒に実習する機会にもしています。生徒たちは、中学生と互いに意識しながら、自分の目標クリアを目指して疲れても集中して努力する姿が見られました。全員が、前期の校内実習よりも作業量がアップし目標を達成するという素晴らしい成果が見られました。



卒業生の進路を知ろう！ 親なき後の生活を考えよう！

9月9日（金）、保護者進路研修を行いました。今回は「卒業生の進路と障害者雇用、福祉サービス」「親なき後の生活、今からできる準備」について取り上げました。

ビデオ映像を交えながら卒業生が働いている様子や卒業後の生活状況についての説明があり、進路実現のために在学中から準備すべきことなどについて皆さんで考える良い機会となりました。



進路は親が決めるものでも、学校が決めるものでもなく、子ども自らが進路を考えて、努力する必要がある、大人はサポートするという意識が必要となります。希望する進路が、一般就労であっても福祉サービスであっても、求められることの基本は「笑顔」「挨拶、返事」「謝罪」「受け答え」「前向きな姿勢」そしてなにより「素直さ」です。

親亡き後の生活については、在学中の今は、まだまだ想像できないことですが、親が世話できなくなった後の本人の生活をどのようにすればよいのか、そのために今から取り組むべきことなどについて考えてみました。

学校も保護者も本人も、高等部卒業後は「独立する（させる）」つもりで、一人でできることや一人で過ごす時間を増やし広げることが大切であり、小学部段階から少しずつ進めていくことが大切になります。

今後も情報発信していきます。少しずつ考えて、できる準備を積み重ねていきましょう。

